

持続可能な水環境のために

新たに社長に就任いたしました狩谷薫でございます。

東京設計事務所は 1959 年（昭和 34 年）の創業以来 58 年余りにわたり、一貫して私たちの生活に欠かせない上水道、下水道を中心とした水インフラに携わる業務を行ってまいりました。

私たちは、清浄で安全な水を守り、健全な水環境を市民の方々に提供する自治体をサポートするコンサルタントとして、高度な技術力をもってこれまでに様々な貢献をしてきたと自負しております。

今日では多くの自治体で上下水道の建設が進み、多くの市民が豊かで清浄で安全な水の恩恵を受けることができるようになってきました。しかし、近年はこれからの大幅な人口減少にともなって、料金収入の減少や事業財政の逼迫という難問がもはや間近にせまっております。私たちコンサルタントは、これまでの技術のパートナーとしての役割に加えて、これからは、事業運営のパートナーとしても期待されつつあります。

いまや時代のキーワードは「持続可能な水環境の確保」となっています。

2015 年 9 月の国連総会で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」である SDG s (Sustainable Development Goals)においては、その 6 番目のアイテムとして「すべての人々に清浄な水が行き渡り、それが持続的に続くように管理してゆく」という「持続可能な管理」が目標として設定されました。これは主として開発途上国を対象としたものですが、わが国においても“持続可能な管理”を確保することが難しくなってくるのが容易に想定されます。

これに対しては、国内においても様々な施策が急ピッチで進められています。事業の経営状況を的確に把握するための公営企業会計の導入、計画的な事業の運営や経営効率の改善をめざしたアセットマネジメント、広域化、PPP などといった事業運営方法の転換です。

このような“上下水道事業の持続可能な管理”への貢献を果たすため、当社は従来の工学的な技術力のみならず、マネジメントに関する知識・知見・ノウハウの習得と蓄積に務めており、これまで以上に多様な人材の育成を図ってきております。

さらに、それを担う社員の WLB を改善し、提供するサービスの質の向上を図るために、AI を含む ICT 技術などの一層の活用に向けた社内環境を整え、社会のディマンドに的確に応えようと努めております。

今後とも上下水道事業の安定的な運営に貢献でき、自治体にとってより信頼できるパートナーとなるべく継続的に研鑽を重ねてまいります。皆さまの変わらぬご指導・ご支援をお願い申し上げます。